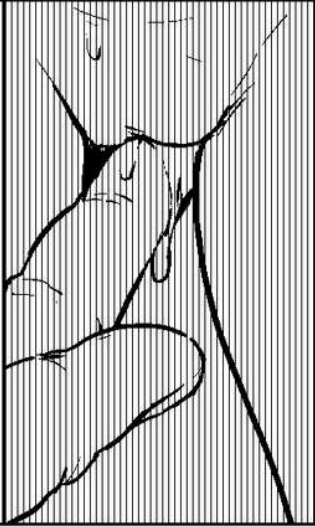






今度パパが書いた小説見してね!!!

私の指が娘の秘裂に
触れると娘は小さく
吐息を漏らした。



それには甘い響きが
混ざっており
まだ幼く未成熟な性器は
生温かく湿り気を
帯び始めていた。

性を知るには
あまりにも早すぎる
歳の娘だが

その丸く潤んだ
ビー玉のような瞳に
戸惑いを滲ませ
ながらも

これから
血の繋がった実の父に
性玩具として扱われる
ことをどこか女の本能
のようなもので察して
受け入れている
ようだった。

これから罪を犯すと
いうのに私のものは
これまでにないほど
激しく怒張っていた。

世界で一番愛おしい
少女と普通の父娘の
関係をこえて深く
繋がるのだ

グロテスクな肉棒と
小さく儂げな桜の花びらの
ような娘の唇が初めて
触れ合う

自分の純潔がたった今
汚されていると知りながら
娘は嫌がるそぶりのひとつも
見せなかった

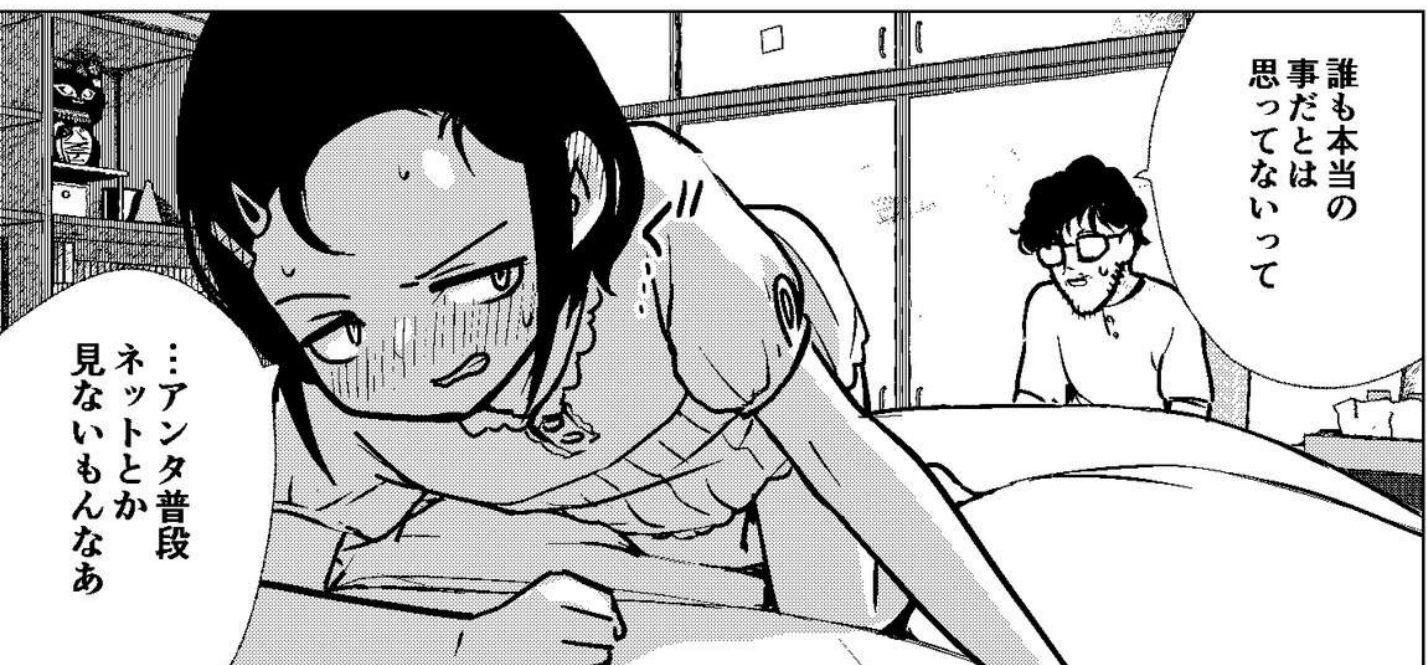
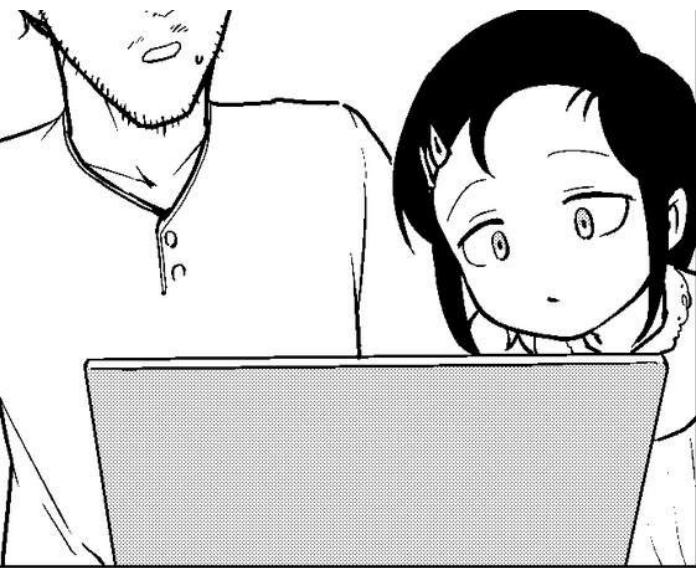
脳は獣欲に蹂躪され
ただ目の前の愛娘の
肉を食りたいという
ことしか考えられ
なかった。



まるで望んでいたかのように
言われるがまさに
父親の脚の間から生えた枝の
露を慈しむように舐め取って
いた。







読者はそう
思っていないからね



エゴサとか
知らないから
知らないでしょ

さっきさあー...
友達にお父さんの
本見してって
言われて...

見せたの?

見せられる
わけ
ねえだろ!!!

でももしもさあ

なんかあって
お父さんのことが
友達にバレたら

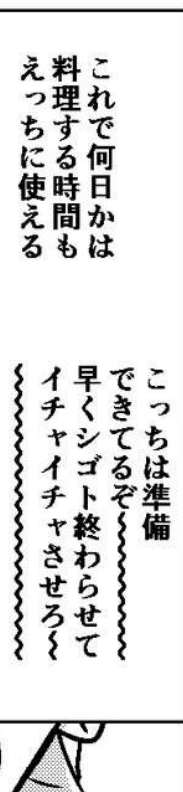
私はいよいよ
友達からも
そういう目で
見られるわけよ...

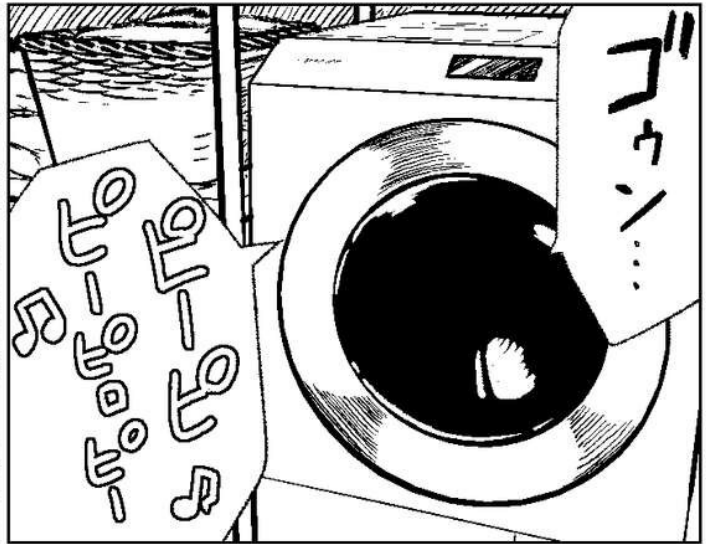
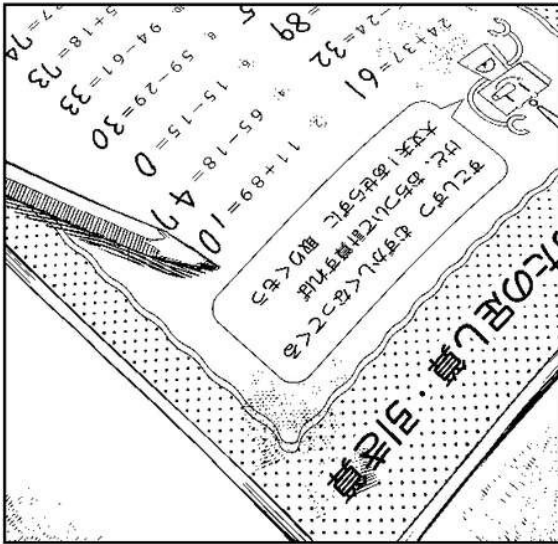
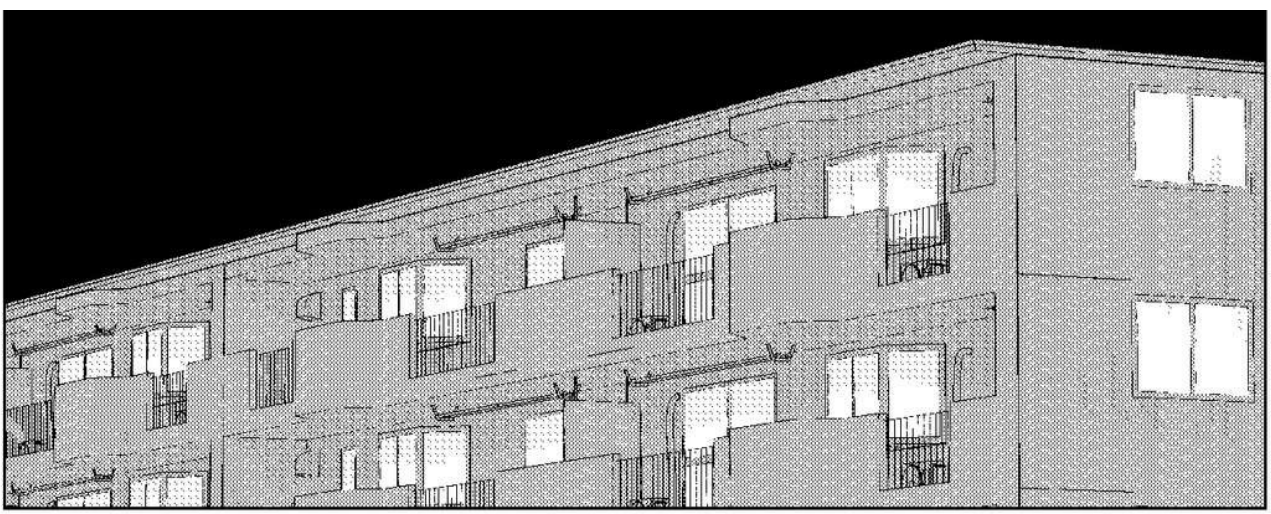
.....あのさ

ひょっとして

えっちするの
嫌?

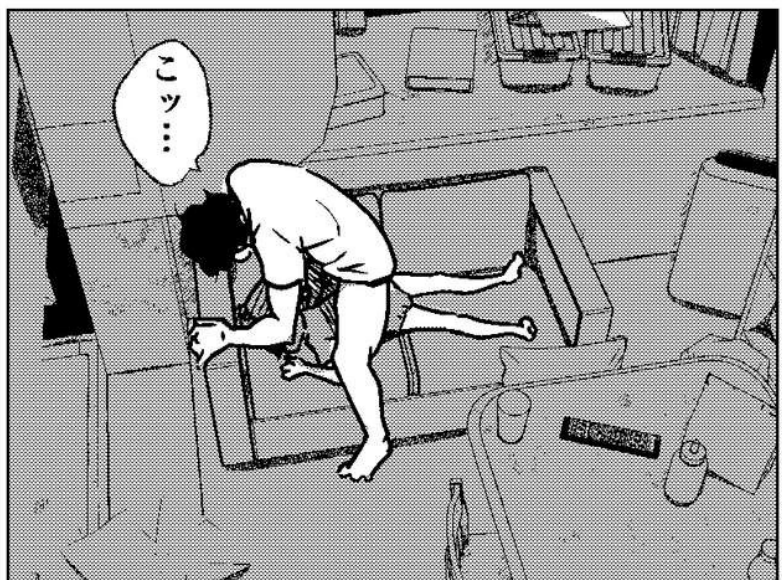
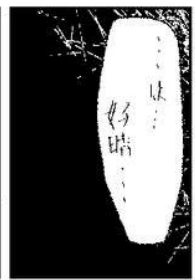














堪え性のない
ダメな父親で…

本当だよ



本当に申し訳ない

ヒリ

ヒリ



もう…何なん…
私はずっとガマンして
たのに…

まあ自制心のある
大人だったら自分の
娘とセックスしないか

ん？じゃあ
これでいいのか？



えっ？
責任？

どっちにしろ
起きちゃった
から意味ない
けどね

ねえ…もう
ねらんないから
セキニンとって
よね



えっちは
してもいいん
だからさあ

起こしてよ…
いっしょに
しようよ…

って
こんな時間か…
起こさないように
してくれてたの？





ね

このままなら…
口で射精させて
あげよっか？

いいの？

その分あとで
私もいっぱい
かわいがって
もらうけどね

じゃあ…
おねがい

このは
好晴の
ちっちゃいお口の
中が

全部俺の
チンコで満たされ
てるっ…

うっああ
気持ちいいっ



んは…
おいひ…

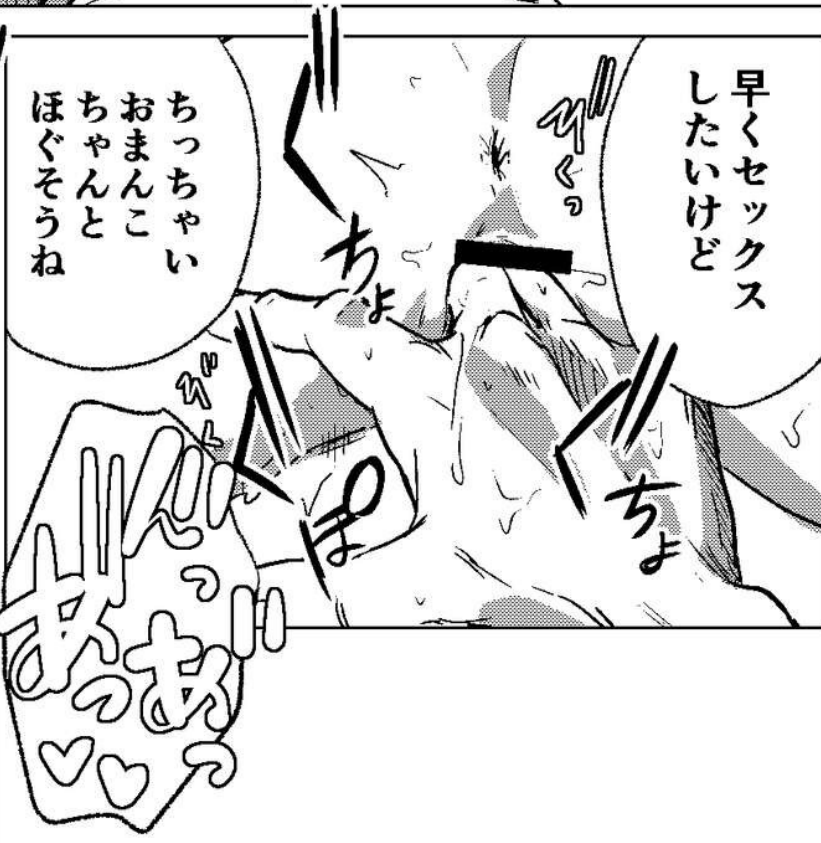
もゆ…
また

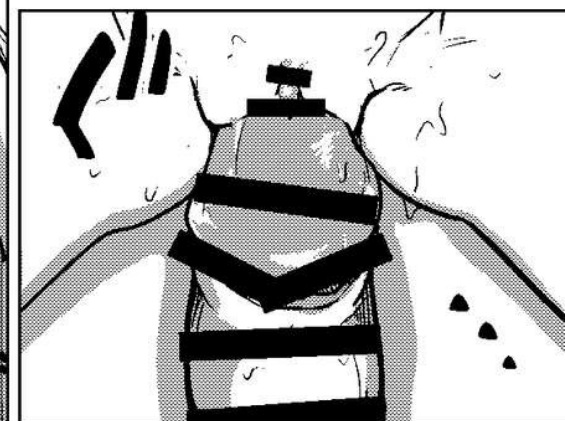
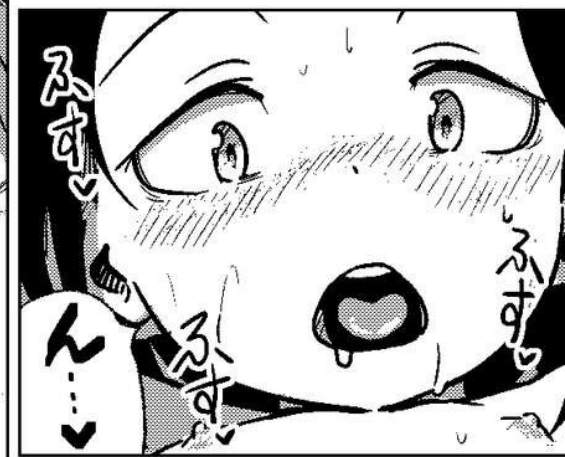
また

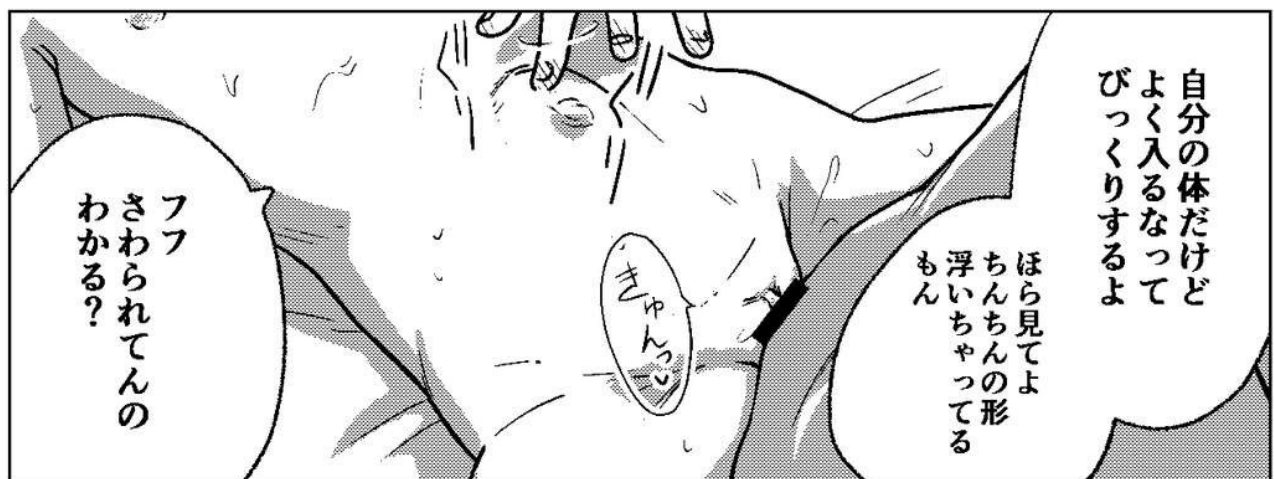
んね

ベツド…
いこ…
♡

は
あ









ごめん…可愛すぎて…
このは
好晴が可愛すぎて
お父さんもう駄目だ…

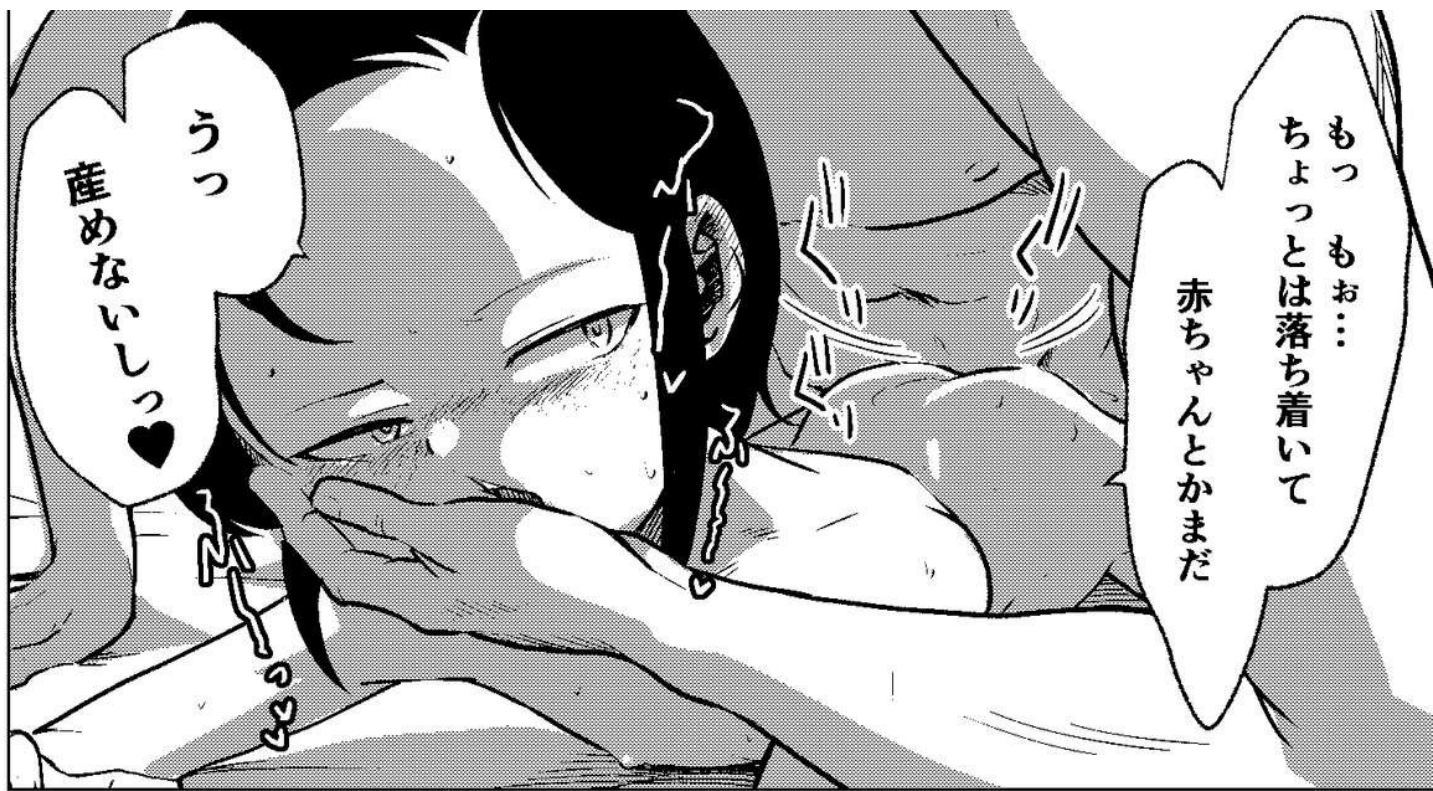
はあ…もう…
このは
大好きだ好晴…

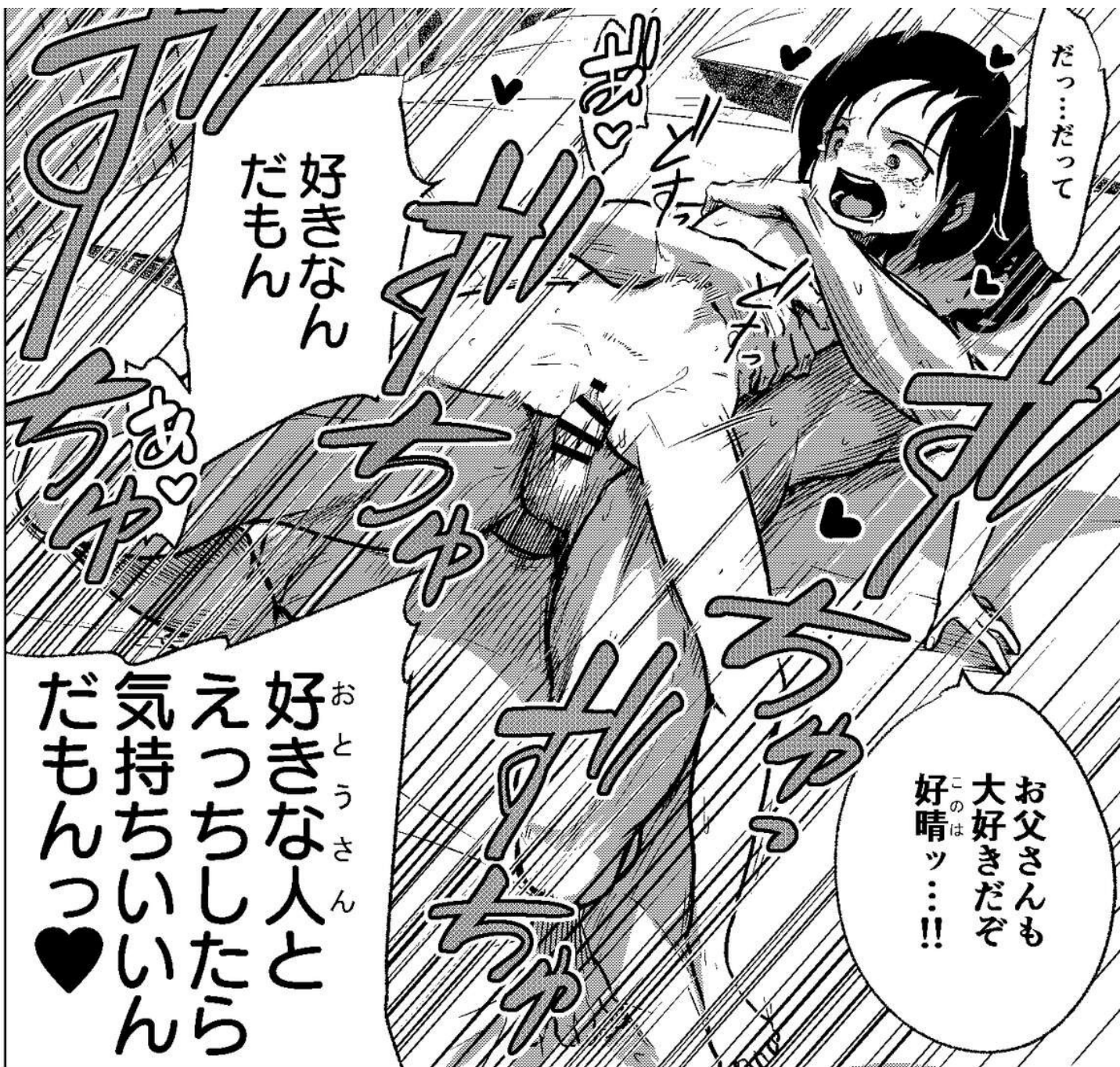
赤ちゃん産んでっ
お父さんと赤ちゃんっ



うう…
ちんちん入れられ
ながらクリクリ
されるのきもちい…♥







だっ…だって

好きなん
だもん

お父さんも
大好きだぞ
このは
好晴ッ…!!

おとうさん
好きな人と
えっちしたら
気持ちいいん
だもんっ♡



お父さんも
このは
好晴の事大好きだから
気持ちいいよ…っ!

このは
好晴が気持ちよく
なるほど
このは
好晴の腔内も

お父さんの精子
欲しがって
ビクビク締め付けて
きてもっと気持ちいいっ!!

まだ赤ちゃん
産めないのに
精子欲しがり
マンコ可愛いっ

おっぱいもまだ
乳腺の一本も
育ってないのに

もに

もに

女の子としての
機能は何もない
まま

気持ちよくなる
事だけ得意に
なっちゃったね

れ

ろ

お

ああっ好晴っ…
可愛い…大好き

一生大好きっ
俺の娘!
俺の嫁っ!

ちゅの

ちゅの

ちゅの

一生一緒に
いてくれっ!!

ゆ

ゆ

ゆ

そのつもり
だっ
ゆってんじゃん

赤ちゃんだっ
産んであげるよ
オトナになったら

赤ちゃん
みたい…
♡

私がいなきゃ
ダメなんて
お父さんのほうが

ちゅの

もお…
おつきいぐせに
あまえんぼ
なんだから





